

令和元年度第3回総合教育会議の開催結果概要

【日 時】 令和元年12月23日（月）午後1時00分～午後2時15分

【場 所】 三豊市危機管理センター301会議室

【出席者】

(1) 構成員

職名		氏名
市長		山下 昭史
教育委員会	教育長	三好 寛
	教育長職務代理者	細川 芳樹
	委員	則久 郁代
	委員	山崎 市子
	委員	堤 重尊

(2) 事務局

職名		氏名	
政策部	部長	綾 章臣	
	地域戦略課	課長	石原 一也
		課長補佐	伊藤 睦子
		課長補佐	篠原 栄司
教育委員会事務局	部長	岩本 茂幸	
	教育総務課	課長	豊島 智
	学校教育課	課長	山下 昌茂
	学校給食課	課長	米谷 明洋
	生涯学習課	課長	三倉 康光
	スポーツ振興課	課長	関子 康博
	人権教育課	課長	三崎 祐治

【傍聴者】 なし

【会議次第】 1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 協議事項

(1) 三豊市教育大綱（案）について

(2) パブリックコメント（意見公募）の実施について

(3) その他

5 閉会

【議事要旨】

発言者	内容
地域戦略課 石原課長	<p>それでは、定刻がまいりましたので、これより令和元年度第3回総合教育会議を開催いたします。なお本日の会議は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第一条の四の6により、総合教育会議は原則公開となっていることから、公開とさせていただきます。</p> <p>それでは、まず、はじめに三豊市長 山下 昭史よりご挨拶を申し上げます。</p>
山下市長	挨拶（略）
地域戦略課 石原課長	<p>続きまして、三豊市教育委員会教育長 三好 覚様よりご挨拶をお願いします。</p>
三好教育長	挨拶（略）
地域戦略課 石原課長	<p>それでは、協議事項に入る前に、本日の会議の議長の選任をお願いしたいと思います。この会議の議長につきましては、三豊市総合教育会議規程の第3条第2項において「議長は、市長または市長が指名した者とする」となっております。また、平成27年度の総合教育会議において会議の議長は、会議の内容によって、決めることになりました。市長、いかがいたしましょうか。</p>
山下市長	今回も教育長にお願いできたらと思います。
三好教育長	はい。それでは今回も私の方で議長を進めさせていただきたいと思います。
地域戦略課 石原課長	<p>それでは、本会議も議長には教育長が選任されましたので、これよりの議事進行については、教育長をお願いいたします。</p>
三好教育長	<p>はい。それでは、議長に選任されましたので、ここからの議事を私のほうから進行させていただきます。それでは、協議事項の1番「三豊市教育大綱(案)について」の協議になりますが、事務局より説明をお願いいたします。</p>
教育総務課 豊島課長	説明（略）
三好教育長	<p>はい。それでは今、教育委員会からの説明を終わりましたので、教育大綱(案)について、山下市長さんのお考えを、まず、最初にいただきたいと思います。</p>

山下市長	<p>はい。この案の中で、いろいろ教育委員さんの方で意見を頂いておりますけれども、非常にわかりやすくなったかなと、より具体的になったかなと思っています。子育て支援、子育て環境の部分をあらゆる面でサポートしてこうという意味合いでやらせていただいています。特に他にはございません。</p>
三好教育長	<p>前回の素案と少し文章を割と短くした部分があります。あと教育委員さんからいただいた意見を文章に加除修正したところがございます。それでは、ここで教育委員さんからのご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。まずは細川委員さん。</p>
細川委員	<p>前回からずいぶんと内容が集約されて読みやすくなったというのが第一印象です。基本理念のところ「豊かな自然環境」という文言が新しく入っているのですが、このことに関する内容が基本目標の中にも「自然環境」という文言が入っていないので、その部分を入れるべきかというのが、事前にいただいてそういう感想を持ちました。もし入れるのであれば、これは基本目標の3のところに入るべきかなというのを感じております。それに連動して、主要施策の3のところにも入れるべきかなと感じております。以上です。</p>
三好教育長	<p>ありがとうございました。今いただいた意見は、基本理念のところ「豊かな自然環境」という言葉が入ったのですが、それを受けて主要施策の中で3の「夢や情熱を育てる文化芸術・スポーツの進行と地域の伝統・文化の継承・発展」の重点項目にも何らかの表現ができないかというご意見ですかね。</p>
細川委員	<p>はい。そうです。</p>
三好教育長	<p>これについては、そういったご意見を事前にいただきましたので、これを実は3の項目の中で努力をしたところではあります。それについて三倉課長からお願いします。</p>
生涯学習課 三倉課長	<p>失礼いたします。生涯学習課長の三倉ですが、ご意見いただきました3のところ「豊かな自然環境」という部分が入らないかということで、いろいろな方面から考慮いたしました。もし入れるとすれば、文化・文化財・文化遺産などの関連になるかと思えます。もし教育部門で残していくのであればというところで考慮いたしましたが、やはりそれを前面に押し出すと、教育委員会の文化財のあたりで自然環境を一番に入れるのかどうか。自然環境全般をうたうのであれば、この教育大綱の中というよりも、市としての取り組みであれば、やはり市全体の環境のところであらうべきかなと。そ</p>

	<p>れだけがピックアップされるというのは、ちょっと生涯学習の中の自然環境という形を入れるのは芳しくないのではないかと。自然環境を守るとか、子どもたちがそのような学習をしようとかいうところに触れること自体は良いと思います。またそれを生涯学習活動の中で行うことも良いかなと思いますが、それが大々的に「自然環境を」という形で出すのは市の方針として出されるのであればよいですけれども、教育委員会の生涯学習の中だけで入るとい形はおかしいかなというところで、長々と話し合いはしましたが、やはりそれはチャレンジという基本理念の中には当然のことながら入る。それは当然、市としては「豊かな自然環境を守る」ということでいいのかなと。一旦入れて考えてみましたが、やはりそぐわないということになりました。</p>
三好教育長	<p>ありがとうございます。委員さんからいただいた意見がありましたので、3の項目のところの一番下側に「文化財の保存・活用と次世代への継承に努めます」という文言が入っていますが、その文言をもう少し膨らまして、「自然環境」とかかわった文言にしようと思つたところです。それがうまく文章として表現できないというところからの回答ですが、何かうまくあればですが。</p>
則久委員	<p>難しいですね。意味合いが変わってきますよね。</p>
三好教育長	<p>表現だけの話ではありますが。</p>
則久委員	<p>私は食の部分もそうなんですが、この前も協議して仕方がないのかなというところで終わっております。あと食育に関して、主要施策の2番のところの下から4行目「食育の推進」というところを入れていただいたのですが、食育の推進というところで、中に含みの形でこういう思いがあるというところをあとでお伝えします。言葉としては、このままの文章でよいと思います。</p>
三好教育長	<p>山崎委員さん。</p>
山崎委員	<p>私も「豊かな自然」に関して、最初に出てきて、他にないのが不自然かなと思つました。ここの一番大きなところで大事だと思いますので、どこかに入れないと本当に不自然だとは思いますが、さて、どこに入れるべきか。3のところとおっしゃっていますが、ここも「文化芸術・スポーツの振興と地域の伝統・文化の継承・発展」とここまで固まると、ここも難しいなと思つています。</p>

三好教育長	他のところ、3以外でもいいですが。
山崎委員	豊かな自然環境を利用して、「今を生きる力を培う教育の充実」や「文化の継承」とか「まちづくり」とか、もう全部入っているような気がします。
三好教育長	基本理念のところに入れた「豊かな自然環境」という文言を受けた形で、基本目標とかかわって、何かそこに表現できるようなものがあればいいというご意見だとは思いますが、どこに入れたらいいか。もしあれば。
堤委員	今回12月11日に集まって、いろいろ意見を言わせてもらって、だいたい反映されているかなと。ただ、先ほどから「自然環境」の項目についての話がありますが、これに関しては「夢にチャレンジ」という基本理念の中で三豊市の環境、その上に立って考えるという意味でもいいのかなと思います。後の項目について、今回、大綱ということなので、個人的にはもうちょっと具体的なことを入れたいところですが、大綱としては十分この形で納得しています。
則久委員	食育の推進というところで、平成25年より仁尾小学校が始めた食育がそのまま三豊市全域の保育所で実施されている件で、その後どうなってるかということで平成29年4月に確認をしたら、当時の状態のままでずっと継続されているとのこと。今はどうなっているかということで、今年11月にもう一度、確認をしたら、ほとんどの保育所が継続されていました。一つの保育所とかではなく、全部の保育所がこういう食育をされているということは、三豊市としても取り上げていただいて、三豊市らしい食育っていう形になれたらいいと思います。文言としては「食育の推進」という短い言葉ですが、その中にはこういうものも含まれていることを頭において活動していただければと思います。あと先ほどの「自然環境」の中に、環境の方と、教育の方と違ってくるので、なかなか文言が入れれないという話ですが、昔からある自然の大事なものをそのまま活かしていきましょうという形になってくるので粟島での海をきれいにする活動とかとは離れてくるのですが、学校教育の中でも、海ごみのこと、マイクロプラスチックのことを取り入れたことが中に盛り込めたらいいなと思います。難しいということだったので、仕方がないのかなと思いましたがこういう活動があるということ、なおかつ、こういうのが出前で高松の先生とか来てくださって、ごみの話とか、なんでこれがいかんのかと、それこそ何十年も昔から海の中に魚よりごみが多くなる現実が目前にあるっていうことを、子どもたちに理解してもらえような機会が生涯学習とかいろんな形で関わっていったらいいのかなと

	思いました。ただ、ちょっとずれるということですよ。
山下市長	環境学習がずれるとはどういうことでしょうか。
生涯学習課 三倉課長	環境学習で入れるのではなくて、3番のところで入れたのは何かって言うと、文化財的な観点からです。
山下市長	3番にはそぐわないということですね。
則久委員	それで一番最初にだけ入れたんですよ。でも自然があつての三豊市なので、それを子どもたちが守っていくというところは、本当は教育の中では大事な項目ではあるんですけども。
生涯学習課 三倉課長	それを本当に入れるのであれば、本来の環境部門として出すべきかなという気がします。則久委員さんがおっしゃった全世界的な動きであるその中に三豊市がどういう取り組みをするのかというのは教育の中だけではないようなところと思いましたので、市として例えばマイクロプラスチックに対する取り組みに力を入れていくというのを打ち出していくのであれば当然のことながら入れていってもよいかと。
山下市長	栗島でタラジャパンがやるという打ち出しがありましたよね。
政策部 綾部長	栗島で環境海洋学習という形でやっていくことで、タラジャパンと9月に締結しました。こういった活動を広げていくために、次年度以降さらに具現化していくということで環境教育学習をやっていきたいと。併せて、スポーツ振興課になると思いますが、B&Gの中で四国中央整備局の取り組みも進めていくという予定もあります。
山下市長	打ち出しという位置付けをどう考えるかですよ。どこかに高々と掲げたものを打ち出しとするのか、そうじゃなくて草の根でやっていくのもそうですから。文言として入らないのか、打ち出してないから三豊市はやらないのか、教育大綱としてなじまないのか。
生涯学習課 三倉課長	実際問題やるのは、去年、タラ号に関しては生涯学習の中でやった経緯もあります。またそれを引き継いで、公民館で今年も夏に瀬戸芸に関係する中で、子どもたちの研修的な部分での取り組みをしました。そのような環境教育は当然、生涯学習の部分でやります。細かいところを打ち出していけばそのようなところもありますけども、ただ大きな意味での、教育大綱というような

<p>山下市長</p>	<p>形のところに、位置付けとしてはめるかという、まだそこまでできていないのかなど。私の認識不足だったかもしれませんが、文化財方面からということで、文化財になりますと、本当の自然環境の部分と文化財的な部分との関係がありますので。悩みましたが、文化財のところからは外しました。</p> <p>3にはなじまないというのは分かりました。</p>
<p>生涯学習課 三倉課長</p>	<p>ただ子どもの教育の中、生涯学習の中、公民館学習の中、細かいところで見ると、実際にやっているのは当然のことながらやっています。</p>
<p>山下市長</p>	<p>委員さんの意見として入れたほうがいいのであれば、どこかに入れられるものであれば入りたい。別にそれは3にこだわっている話ではなくて、例えば2番の「生きる力を培う教育の充実」という中にも大きな意味では「自然環境を守る」「自分たちの生存域を守る」というのも入りますし、そこは委員さんの意見の部分でどうするか。</p>
<p>則久委員</p>	<p>政策のところ、来年いろんな形で入ってくるということは、例えば、「何かをやりますから皆さんどうぞ」じゃなくって、出前事業で各学校に4年生対象に回って行ってとか、具体的なものは考えてられるのですか。</p>
<p>政策部 綾部長</p>	<p>今のところ具体的なものは無いですが、ただ今お話ししたタラジャパンさんと協議するのであれば四国地方整備局とか含めて、関係者の方と協議する中、市長が打ち出して「学びの場を作る」というところがありまして、その中にも、スポーツ、文化、環境、AI、先端技術等々、その中の環境というのが入ってくると思いますので、ここはぜひタラジャパンさんのお力を借りてやっていきたいというのは協議していきたいと思います。</p>
<p>三好教育長</p>	<p>今、市長さんからもお話があったように、則久委員さん、また綾部長さんからお話がありましたけれども、もしそのタラジャパンに関して、環境教育の一つとして、自然環境ということを出すとすれば、学校教育の中の環境教育の項目として起こすことは考えられるかなというようにも思います。それであれば例えば2の項目の中に何かそういった文言があっても。ここは主に学校教育を意識した項目かなと思ひまして「思考力・判断力・表現力を高め、生きる力を培う教育の充実」と。そういった中に環境教育の一つを打ち出すとして、それが自然環境と関わった文言として、入れることができるのかなど。</p>

山下市長	<p>例えばの話です。例えば2にも入らないことはないかなと思うだけで、そこは委員さんのご意見を聞いていただければと思います。</p>
三好教育長	<p>3の項目に入れようとしたのは、文化財との関わりの中で自然環境を入れられないかなど。</p>
則久委員	<p>こちらの方の環境ということだったのですね。それも大事ですよ。</p>
三好教育長	<p>そこについて具体的な文言も含めて検討しなければいけないと思いますので、このあと定例教育委員会もありますので、委員さんには、その場の中でも細かい部分も含めて検討をお願いしたいと思います。あと何か委員さんの方からありますでしょうか。</p> <p>堤委員さんからは、大綱としては概ねよろしいのではというご意見ですが。</p>
細川委員	<p>私もうまくまとまっていますと思います。</p>
三好教育長	<p>では先ほどの則久委員さん、細川委員さんからありました「豊かな自然環境」と関わる文言については、この後の定例教育委員会の中で協議したいと思います。大まかにはこの大綱（案）ということできたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、続いての議題に移りたいと思います。協議事項2「パブリックコメントの実施について」、協議を行います。資料について事務局より説明をお願いします。</p>
地域戦略課 篠原課長 補佐	<p>説明（略）</p>
三好教育長	<p>はい。それでは、事務局の説明が終わりましたので、パブリックコメントの実施につきまして、山下市長さんのお考えはいかがでしょうか。</p>
山下市長	<p>特にないです。</p>
三好教育長	<p>委員の皆様から何かございますでしょうか。</p> <p>意見公募の期間は、令和2年1月20日（月）から2月19日（水）までとほぼ一か月間を予定しております。</p>

細川委員	この計画通りに進めていてよろしいかと思います。
三好教育長	<p>はい。それではこの計画に沿ってパブリックコメントを実施していくということでご了解をいただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>それでは、協議事項3「その他」ですが、本日、協議した内容以外で、何か協議や調整を行いたい事項はございましたらお願いします。何かありますでしょうか。</p>
堤委員	<p>将来的な形で市長にちょっと考えてもらいたいなということがありまして、少し具体的な内容になってきますが、子どもたちに夢とか、いろんな郷土のものを見せていくとかという意識の中で、各市町村いろんなところで、市が主催で、全国公募で何かイベントを行うという形ができないかと。例えば、名古屋で不自由な表現ということで問題になりましたけれども、あれは名古屋市としてやられています。例えば、津山市が公募展ということで全国から募集を募ってやっている。そういうものを開けば、結構地元で作品が集まってきて、作品だけに限らず文学的なことでもいいし、いろんなそういうことでの場を設けたら子どもたちも接することができるし、三豊市としての何かができればなど。ちょっと考えてもらいたいなと。</p> <p>もう一点、今、三豊市で不登校の子たちが、小学校、中学校でも人数的にも増えてきているので、その辺に対する施策として、学校に直接来させるのが難しい子どもたちに対して、フリースクール的なものでもあれば、ワンクッションそこで、また学校に入っていけるとか、ワンクッション置ける場を設けていくとかも一つの今後の考え方かなと思います。いろいろ課題はあろうかと思いますが、今後、考えてもらえたらなと思います。</p> <p>それと3点目ですが、今回の大綱の中で、一番最初に「子どもも大人も夢や希望を抱ける環境を作ります」という部分で、メロディーロードというのがありますが、四国の中では佐田岬半島にあります。これを三豊市内にも、例えば父母ヶ浜にもたくさんのお客さんが来られてますが、曾保から父母にかけてのカーブを作るのもいいかと。北海道ではスピードを抑制するという意味合いで設置していますが、曾保のところも道は広がりましたがカーブで昔から事故も多いところですけど、例えばああいうところに設置するのもいいかと。やはり夢じゃないですけど、三豊市にも彩になるのではないかと。地域の人たちも、子どもたちも、三豊市にはこんなものがあるんですよと言えるようなものにもなるかと思っています。この3点、提案させてもらったらと思います。</p>

山下市長

メロディーロードも含めてですけど、1番と3番で言うと、三豊市には芸術的な発表の場ってというのが、特に絵画系とか、ないんですよ。ようは美術館的なものがないので、そろそろ文化施設としてそういうのも持っているのではないかと思います。前にも言いましたが、三豊市の歴史を知る手段を実は持ち合わせなくて。旧町時代からの文化財的なものとか、博物館的なものは散在しています。それも含めて一か所で三豊の歴史がたどれるような博物館を、そんなに大きなものでなくてワンフロアでもいいです。美術館という箱物を建てるというイメージではなくて、芸術に触れられる場所を。先ほど委員さんもおっしゃったように、絵画を募集しても、ロビーのスペースで見ると、いわゆる美術館的な落ち着いた場所で見れるのとでは全然違うと思います。ハードが先か、ソフトが先かという話になってしましますが、いずれにしても、そういう場所がないのは確かで、そういう部分は今後、ぜひとも考えていかないといけないなと思っています。

もう一点、不登校の子の学ぶ場については、教育委員会にも言っていますが、夜間中学を作りたいなと思っています。実現できるかどうかは分かりませんが、文科省が義務教育を卒業していない、卒業できなかった人のために、貧困だったりとか戦中戦後の話であったりもしますが、香川県で義務教育を終えてない人が840人だったかと。三豊市でも46人いる。そういう人のためにも文科省が各県に一か所、夜間中学を作るように言っていますが、今、四国でないのが愛媛県と香川県だけです。居場所づくりというか、フリースクールの延長だと思ってまして、しかも外国人がこれだけ増えて日本語学校がないという状況。なので、そういうのができたらとは思っています。ドロップアウトした感覚で行くのではなくて、ちゃんとその人に合った学びの場があるんですよっていうところは用意してあげたいなと思っています。できれば公立でやりたいですけど。そういうことも考えてみようかなと思っています。

堤委員

1番目の市長の言われた場所ってというのが美術館でなくても、例えば県立ホールもそうなんですけど、あそこで県展を開いたりしていますけど、やっぱり多目的要素を持たせて、固定化・限定化せずに、一部のコーナーとして民俗資料館的な形というスペースと、一角にそれがあって、多目的ホールがあるのいいのではないかと思います。

山下市長

なんとなくですけど、どこに行けば三豊の歴史が分かるのか。高瀬の二ノ宮で銅剣・銅鐸が出たことを知らない子たちがあまりにも多すぎるとか、詫間の港で特攻隊がいたことも知らない。

堤委員	<p>今、各町の公民館には、結構、展示してありますが、あれを三豊市として統合した形で見れるっていう場所があってもいいかと思います。</p>
山下市長	<p>実は今、大阪大学の研究者が仁尾の覚城院に入っています。室町時代に中四国の真言宗のお寺を復興させた「増（ぞう）うん」という僧侶が覚城院にいたことがあって、そこに室町時代の書物とかが残っているんです。「増うん」という僧侶はすごい謎で、何もわかっていないが、空海からの流れを受けた僧侶ということだけがおぼろげながら分かってきている。それを大阪大学の研究者が調べている。それを私たちは知らないわけじゃないですか。覚城院自体の成り立ちも、長曾我部に滅ぼされた仁尾城の跡に建っていることを、あまり知られてない。そういうことを知らないで子どもたちが大きくなっていくのでいいのかなと。そういうことすら、我々は提供できていないんです。なのでそういう場所もあるんだろうなと。</p>
堤委員	<p>覚城院は、あそこに金光寺というお寺があるんですけど、そこが元々の仁尾城主のお墓が残っていて、多分、覚城院も金光寺も仁和寺系なんです。元々、覚城院の先代さんは仁和寺の館主までされた方です。金光寺さんにおられた優秀な方が、分家じゃないけど、覚城院に分かれたんだろうと思います。</p>
山下市長	<p>大阪大学では盛り上がっているみたいですが。三豊市にはそういう所が結構ある。ただ、そういったところを一部の人間が知っているだけじゃなくて、研究者が知っているだけじゃなくて、そこで暮らす子どもたちとか、私たちもそうですけど、やっぱり知っていたほうがいいと思います。自分たちが生まれ育った土地に、300～400年前にはここにも人が住んでいて、人の営みがあって、そのリアリティを知らないのは大きいかと思います。</p>
三好教育長	<p>今、堤委員さんから三豊市の歴史、郷土の歴史を知る機会を、また、芸術に触れる場、芸術発表の場所を設けてはどうかと。また、不登校の受け皿となるフリースクール等の検討のお願いというご意見でした。ほかにございますでしょうか。</p>
山崎委員	<p>5のダイバーシティのところですが、今、三豊市の歴史というお話がありましたが、三豊市というのは、山の自然、海の自然と両方の自然があって、国道や高速、鉄道も通ってて、さらに災害が少ない場所であります。香川県は日本で一番小さい県ですけど、その中の三豊市でいうと、コンパクトな動きが取りやすいまちかなと。さらに発展していくために、いろんな人が入っています。それを市民がどういうふうにとらえるか。フォローも必要かなと</p>

思います。いろんな人を受け入れるまちとしても、都市生活で言いますと、例えば、電車、山手線でいうと駆け込み乗車はしないでというのがあります。10年ぐらい前からいうとかなり減ってきていますが、駆け込み乗車をする、一回挟まれます。すると、もう一回開いて、また閉まる。これをやるとどこかの電車で遅れが出ます。駅でないところに、次々と停まって行って。これはだいたい4月とか5月に多いです。いろんなところから人が移り住みますので。それから江戸時代に、江戸のまちが世界的にも類をみない大きな都市だった。その時に、江戸は住みやすいと。なんでかというとなマナーがよかったから。例えば、雨の日に狭い道を人が行違うときに、お互いに傘を横にしていた。これは、こうせないかんというルールではなくてマナー。一人ひとりが生活しやすくするために、どうしたらいいかというのを、やっぱり考えていく。マナーがないと都市生活は成り立たない。都市ではないですけども地方においても、いろいろ変わってくる中で、風習とかルールじゃなくて、一人一人が住みよくするために意識していったら、いいまちになると思います。ダイバーシティ、多文化共生社会。一人ひとりが意識して取り組んでほしいなあと思います。

三好教育長

マナーの向上ですね。

則久委員

先ほど堤委員さんから話のあった美術館であったり、市長さんのお話を聞くと、歴史的なものを一つにまとめたところがあればというお話がありました。ひとつそれは大事だと思います。ただ、今、美術館ができましたよって言って、どれだけの子どもが行けるか。例えば、いまもうファミリーであったりとか、いろんな家庭環境、貧困であったりとかいう子どもたちが増えている中で、そういうところに、どれだけの子どもたちが、あと芸術のいい人が来るから、そこにみんな集まってって言われても、どれだけ行けるかっていう現状があるので、例えばそういう建物が一つあったとして、その他に各小学校に行けば、みんな平等に満遍なく見たり聞いたりすることができるので、移動の美術館、これは保存状態とか大変かもしれないけれども、移動美術館が学校に来るよっていうのをしたりとか。何かそういう満遍なく、一部の子どもしか来れないというものではなく、どうせするのであったら学校にしましょう。行かなくても来てくれるという移動のもの、あと出前をどんどん増やして行って、子どもたちがほんと、いろんな講演とかをしても聴いてほしい人は来てくれないということが多いのですが、そういう現状ではなく、なんでもっと子どもたちがいろんな芸術であったりとか、いろんなところに触れるための取り組みを、今からは必要ではないかなとすごく感じます。でない特定の人たちだけにしか、そういう情報が届かなかつたりとか、見に行けなかつたりとかという現状が、今、実際に家庭はそれほど大変なこ

<p>山下市長</p>	<p>とになっていると感じています。</p> <p>特定の人しか行けない美術館を考えるつもりはなくて、移動式のもの考えるのも当然のことですし、ただこの必要性というものと、そこに子どもたちをいかに連れてきてあげるかっていうのは大人の責任なんですよね。それは方法として考えればいいと思いますし、それでも無理だったら学校に行き行ってあげるっていうのはあります。どっちが必要かという、どちらも必要なので、それを否定するものではないです。例えば、国立美術館に行けない人っていると思うんですけど、でもそこに連れて行ってあげるっていうのも重要なんですよ。そういうものを見せてあげるっていうのも重要です。ただ国立博物館からはこっちには来てくれないです。その部分の区別は絶対出てきます。本物を見せてあげるというのは、満遍なく見せてあげるのは当然の必要性がありますけれども、ただシチュエーションの大切さというものもあって、例えば美術館というところに行くという行為も、子どもたちの情操教育の一部にはなると思います。なので、そこを否定するものでもないですし、来れないというハードルをつける必要もないです。それならば無料で連れてきてあげればいい。学校ごと来てもらってもいい。なので、その部分を一緒にされると厳しいなと思います。美術館に行けない子をいかに連れてきてあげるかということも考えることも重要。来れないという前提の子たちを、前提に作ってしまうと、それをその子たちはいつまでたっても国立博物館には行けないという前提で我々は見てしまう。行くのも大事。双方向なんですよ。美術館の趣というか雰囲気というものも味あわせてあげたい。</p>
<p>三好教育長</p>	<p>三豊市の中でいかに本物を見せ、芸術に触れる機会をどう確保するか。各学校においても、授業時間を利用して、芸術家を呼ぶ事業もされていますし、巡回展もしていますし、どういったものを、芸術に触れる機会を子どもたちに持っていけばいいかということだと思います。</p>
<p>則久委員</p>	<p>もう一点。私は10何年、食育というものをやっているのですが、市長さんの食育に対する思いを聞かせていただければと思います。</p>
<p>山下市長</p>	<p>折に触れていっていますが、食べるは命の根源に関わることで、ちゃんと食べられる環境を、そして自分たちの体を作ることは本当に命の根源だと思っています。そのために我々はいろんな環境を整えてあげなければいけない。さっき言われた行けない子とか、すべての子たちに食育を通じて、生きるのを教えるのが食育だと思っています。</p>

則久委員	具体的にはありますか。
山下市長	今、たちまちはないですけど、食育はずっと続けられていること。ただそれが徹底されてないことに関して、再度教育していただくことが必要だと思います。
則久委員	市長さんがおっしゃられたように、食べることは一番大事なことで、自分を作っていくこと。心も体も食べるものでしか作ることができない。いろんな環境もありますが、基本は食べるものが土台になってくると思います。例えば、病気をしたら病院に行く。小さい子どもをみて、仕事に行こうと思えば、幼児保育の施設も必要です。でも健康な体であつたら、病院もしょっちゅうはいらない。幼児保育の施設もしょっちゅうは使わなくて済む。なので、せっかく三豊市の小学校や全保育所が取り組んでいた食育で子どもたちの体温が上がって、体温が上がれば免疫も必然的に上がります。そうすると病気も少なくなります。という後天的な実例が実際にあって、これを三豊市の保育所のみんながやってたという事実があるので、これを風化させることなく、市長さんの考えの中で生かしていただきたい。
三好教育長	<p>今、いろいろなお話を進めてきましたが、いろいろな問題をそれぞれの立場で考えていただいておりますが、総合教育会議だけではなくて、定例の教育委員会でも協議を進めていかなければならないところですが、今日は主に教育大綱（案）についての協議をしていただきました。ほぼ今日、出させていただいた議題については了承いただいたということで、自然環境についてはこのあとの定例教育委員会で協議しますが、それを経て、パブリックコメントに入っていきたいと思います。</p> <p>それでは、すべての議題が終了しましたので、ここで議長を降ろさせていただきます。長時間に渡り、御協議いただきましてありがとうございます。これからの進行は事務局よりお願いします。</p>
地域戦略課 石原課長	ありがとうございました。本日予定しておりました議事等につきましては全て終了いたしましたので、これにて閉会させていただきたいと思いますが、閉会に際しまして、山下市長よりお礼申し上げます。
山下市長	挨拶（略）
地域戦略課 石原課長	ありがとうございました。以上をもちまして、令和元年度第3回総合教育会議を終了させていただきます。なお、次回の総合教育会議につきましては、来年2月下旬を予定しております。どうぞよろしく願いいたします。

	本日は、長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。
--	-------------------------------

三豊市総合教育会議規程第6条第3項の規定により、ここに署名する。

令和2年 / 月 15日

三豊市長 山下昭史

三豊市教育長 三好 崇

